

# 道徳のかけ橋

平成31年1月11日発行  
第 1 9 号  
福 島 県 教 育 庁 課  
義 務 教 育 課

## 道徳科の授業改善と充実が着実に進んでいます。

道徳科が誕生し、教科化元年の今年度、学校訪問で行われた道徳科の授業では、子どもたちの素敵な学びの姿を数多く見ることができました。これも、各学校が「多面的・多角的に考える」「自己を見つめる」といった道徳科の特質を大切にしながら、授業の改善と充実を図った成果であると思います。

本号では、大玉村立玉井小学校の要請訪問で行われた、第3学年道徳科授業の概要及び工夫した点や有効な手立てにふれ、そのよさを紹介します。御自身の授業実践の参考にしてください。

### 大玉村立玉井小学校第3学年1組の授業実践 〈指導者：安齋浩子教諭〉

**主題名** 自分をステップアップ【A-（5）希望と勇気、努力と強い意志】

**ねらい**

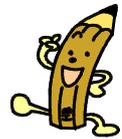
主人公達が「かに博士」になるまでの心の動きを自分に置き換えて話し合うことを通して、自分から進んで目標を立て、障がいや困難を乗り越え、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

**教材名とあらすじ**

「ぼくらは小さなかにはかせ」（小学道徳「ゆたかな心 3年」光文書院）  
なかよし三人組が、校庭の中庭で小さなかを見つめ、そのかについていろいろなことが知りたくなる。そこで、そのかについて調べ、壁新聞にすることにした。勉強は苦手な三人組はなかなかうまく調べることができなかつたが、土曜日に町の図書館でどんどん調べ上げ、学級のみんなに喜ばれる壁新聞を作り上げた。



## 授業改善が図られているポイントはここ！！



**A** 「何を学ぶのか」を明確にし、絞り込まれた発問によって学習活動を焦点化しています。



**B** 思考を可視化し、考えの根拠に目を向けさせ、自分との関わりで考えを深めさせています。



**C** 教師のコーディネートにより児童が自分を振り返り、自己の生き方・考え方を見つめさせています。



## 授業の実際



□ 逆上がりの練習をしている場面絵を見て話し合う。

T： この子は、一生懸命逆上がりの練習をしているけど、なかなかできません。みんながこの子だったら、どんなことを考えますか。

C： もうちょっとなのに…

C： もっとがんばろう。

C： できないから、イライラしてくる。

T： 今日のお話の中に出てくる三人組は、勉強が苦手なのに「かに博士」になれました。どうして、「かに博士」になれたのか、考えながら聞きましょう。



**A** 導入において、児童にとって日常的な場面を取り上げ、本時で扱う価値に方向付けています。また、教材を読む視点を与え、本時の学びにつながる部分に注目させています。

□ 教材「ぼくらは小さななかにはかせ」をもとに話し合う。

- (1) 教材を読んだ感想を發表する。
- (2) 本時考えたいめあてを明確にする。  
めあて：きめたことを最後までやりぬくひけつって、どんなことかな。

T: 三人は、かについての壁新聞を作ることにしたんだね。  
でも、三人は勉強が苦手なんだよね。  
図書館で調べたけど、なかなか分からないんだね。

T: 自分なら、最後までがんばれるかな。ハート図を動かしてみよう。  
(がんばれる・・・黄色、がんばれない(あきらめる)・・・ピンク)

**A**

場面設定や前提条件を確認し、中心発問につなげています。



- 黄色の面積を広く示した児童が多い。
- T: 黄色の部分が多い人に聞いてみます。
- C: ここであきらめたら、後悔するかも。
- C: 今年の目標は「挑」(※)だから、最後までやりたい。
- ※ 玉井小学校PTA「今年の漢字」
- T: ピンクの人気持ちも知りたいな。
- C: できないときは、あきらめてしまえそう。
- C: 勉強が好きじゃないから、続けられないと思います。

**B**

ハート図を使って自分の考えを可視化し、その根拠を考えることで、自分との関わりで道徳的価値を理解させています。



T: 黄色の部分が多い人、どう？ピンクの部分が多い人の気持ち分かる？  
だって、遊びは得意だけど、勉強は苦手なんだものね。  
みんなにも、同じような気持ちになった経験があるかな…。

**C**

友達の気持ちが分かるかを尋ねたり、少数意見の「あきらめる」という気持ちに寄り添って、「がんばれる」と考えた児童にゆさぶりをかけたりして、多面的・多角的に考えさせています。



- C: 私、運動苦手だから、マラソンの練習の時、やっぱりどうしても、「もうがんばれない」って思う時がある。
- C: 私、黄色って言ったけど、そういう時って「めんどくさい、遊びたい」って思う。
- C: 私も、Cさんの気持ち分かる。やっぱりピンクの気持ちがある。
- C: 私も、ピンクの気持ち、あきらめなくなる気持ち分かる。マラソン大会の試走の日が、来てほしくないと思う。
- C(複数): 分かる、分かる…。(口々に言う子、うなずく子) 《略》

□ 本時のテーマについて、自分の考えをまとめる。

【 児童のノートから 】

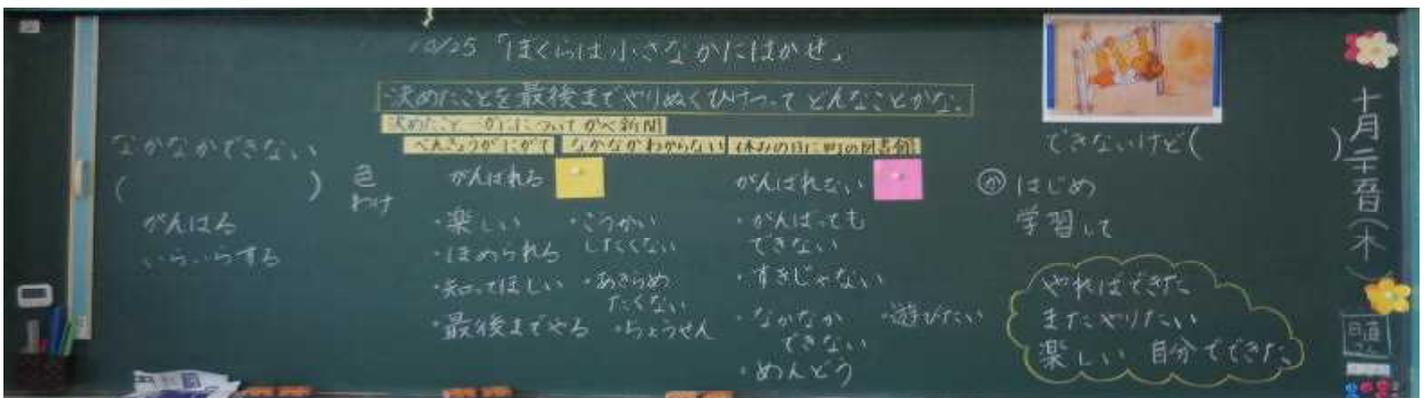
はじめはピンクの考えでした。遊んじゃったり、めんどくさかったり、あきらめてしまったり・・・、これ全部、自分は思っているけど、〇〇さんの「二度も、三度もやれば…」という考えと、□□さんの「やりたいという気持ちがある限り」という考えから、そうできるんだな、と思ってきて、「明日はできる」と考えると、明日が楽しい日になると思います。



授業の基盤が確立されています!



### 【本時の板書】



「ハート図」を活用して、「自分ならがんばれる」(黄色)、「がんばれない(あきらめる)」(ピンク色)の迷いや葛藤を生み出し、児童がそのように考えた理由を簡単なキーワードで板書しています。児童一人一人の思考が活性化される板書づくりが、これからの道徳科の授業ではとても大切ですね。